

# ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による異時性胃癌の抑制

Choi IJ, Kook MC, Kim YI, et al. *Helicobacter pylori* Therapy for the Prevention of Metachronous Gastric Cancer. *N Engl J Med.* 2018 ; **378** : 1085-95.

診療教授

伊藤公訓

Masanori ITO

広島大学病院消化器・代謝内科

### ▶はじめに

早期胃癌を有する症例は、固有胃腺の消失すなわち萎縮性胃炎を有し、胃癌治療後に新たに異時性胃癌を発症するリスクが高い。ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が、萎縮性胃炎や異時性胃癌発生に及ぼす長期的な影響については、いまだ明らかでない。

### ▶方法

本試験は、前向き二重盲検プラセボ対照試験として実施された。早期胃癌ないし胃腺腫のため内視鏡治療を受けた470症例が登録され、抗菌薬またはプラセボを用いた除菌治療が実施された。本試験の主要評価項目は、(1)除菌治療実施1年以降に内視鏡的に診断された異時性胃癌、(2)除菌後3年時における胃体部小彎での胃底腺萎縮の変化(試験開始時との比較)、の2点である。

### ▶結果

Modified ITT 解析において、最終的に396症例が解析対象となった。このうち、抗菌薬による実薬群は194例、プラセボ群は202例であった。平均観察期間は5.9年であり、観察期間内に診断された異時性胃癌症例数は、実薬群で14例(7.2%)、プラセボ群で27例(13.4%)であった(実薬群のハザード

比 0.50 ; 95% 信頼区間 0.26-0.94 ;  $p=0.03$ )。組織学的に萎縮性胃炎が評価可能であった327例において、体部小彎の組織学的萎縮の改善は、実薬群で48.4%に、プラセボ群で15.0%に認められた( $p<0.001$ )。全登録例において重大な副作用は認められず、軽微な副作用は実薬群で多く認められた(42.0% vs. 10.2%,  $p<0.001$ )。

### ▶結語

早期胃癌内視鏡治療症例は、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療を受けることで、異時性胃癌の発生頻度は低下し、組織学的萎縮性胃炎の改善がみられる(Funded by the National Cancer Center, South Korea ; Clinical Trials. gov number, NCT02407119)。